

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 学校目標・経営方針 | 心のゆたかな人間を育てる。(社会で活躍できる、地域に貢献できる人づくり) |
|-----------|--------------------------------------|

山梨県立富士河口湖高等学校校長 小俣 義一

| | |
|----------|-------------------------------|
| 本年度の重点目標 | 1 確かな学力の保証とBYODを含めたICTの効果的な活用 |
| | 2 3年間を見通した進路指導の充実 |
| | 3 文武一体を自覚した部活動の活性化 |
| | 4 コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上 |

| | |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上) |
| | B 概ね達成できた。(6割以上) |
| | C 不十分である。(4割以上) |
| | D 達成できなかった。(4割以下) |

| | |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。 |
| | 3 できている。 |
| | 2 あまりできていない。 |
| | 1 できていない。 |

| 自己評価 | | | 年度末評価(2月9日現在) | | |
|------|-----------------------------|--|---|-----|---|
| 番号 | 評価項目 | 本年度の重点目標 | 自己評価結果 | 達成度 | 成果と次年度への課題・改善策 |
| 1 | 確かな学力の保証とBYODを含めたICTの効果的な活用 | ①主体的、対話的で深い学びを実現するための授業研究の推進、相互授業参観の促進 | ①各教員が、協働的な学習や実験・実習などを取り入れ、生徒に理解しやすい授業展開を実施している。 ②新学習指導要領を踏まえて、32単位での教育課程を展開しているが、教員や生徒の負担感があるため、それほど効果があるとはいえない。 ③ICTの活用については、各教員が授業でどのように活用していくのか模索をしていた。 | B | ①各教員が、個別最適化の学習や協働学習を引き続き授業展開に組み込んでいく。 ②来年度は、教育課程を31単に変更する予定である。生徒の進路実現のために、授業や家庭学習を工夫することで、改善につなげていく。 ③ICTの活用については、相互授業参観など、ICTを活用している教員の授業を参観し参考にすることでBYODの活用を促したい。 |
| | | ②新学習指導要領2年目を受け新教育課程の検証と健康科学大学との連携授業の推進 | ①管理職との面談(教科指導)、相互授業参観でのコメント交換 ②教育課程委員会の審議結果と学校評価アンケート(教員) | | |
| | | ③学校における働き方改革を推進し、また、ICTを活用した効果的な教育活動の実践 | ①教科や学年・分掌、部活動指導による点検、分析 ②授業アンケートの実施 | | |
| 2 | 3年間を見通した進路指導の充実 | ①個に応じた進路希望実現を目指した教育課程の編成と工夫 | ①模試や課外などの進路行事を精選することで、生徒の進路意識を高めることが出来た。 ②クラスターにおいては、生徒や保護者に学校内の情報提供がなされている。 ③三者懇談、二者懇談等が計画的に行われ、進路や学習状況等についての適切なアドバイスを受けることができるという項目では生徒から高い評価を得ている。一方、保護者は自分の子どもの悩みなど学校に相談しにくいと感じている。 | B | ①これからも進路行事を検討することで、生徒の進路実現をめざしたい。 ②クラスターについては、連絡機能は積極的に活用しているが、他の機能もあるのでこれからも活用について検討していく。 ③保護者には、学校たよりやクラスターやホームページをより積極的に使用して、学校の様子を随時伝えていきたい。 |
| | | ②各種課外の実施、進路関連行事の企画・運営とクラスターの活用に向けた研究の推進 | ①学校評価アンケート(教員、生徒) | | |
| | | ③進路相談やカウンセリング、三者懇談の充実、個々に応じたキャリア教育の実践 | ①学校評価アンケート(保護者、教員、生徒) | | |
| 3 | 文武一体による全人教育を目標とする部活動の活性化 | ①文武一体を具現化するための生徒、教員の意識改革と努力 | ①生徒の部活動への満足度は9割以上に上り、また、学習と部活動のバランスについて、8割以上の生徒が両立体制の整いを評価している。 ②部活動の統廃合に関しては、教員、生徒が検討をした。 | A | ①部活動と学習の両立については、保護者は7割、教員は6割程度である。部活動の活動計画と家庭学習の実施について、これからも検討していく。 ②来年度からは、茶道部を廃部、柔道部を募集停止とし、英会話と写真部と美術・文芸部を一つの部として統合する予定である。引き続き、生徒数、教員数の減少に伴い、適正な開設部数の検討を続けていく。 |
| | | ②学習と部活動の両立に配慮した年間行事予定の編成 | ①学校評価アンケート(教員、生徒) | | |
| | | ③改廃も含めた適正な開設部数の検討、顧問配置への配慮と部活動の更なる活性化 | ①学校評価アンケート(教員、生徒)、生徒総会 | | |
| 4 | コミュニケーション能力の基盤となる言語力の向上 | ①朝読書の充実や読書会(図書委員会主催)の実施による豊かな心と論理的思考力の育成 | ①朝読書が本を読むきっかけとなっていると考える生徒が増加した。生徒自身も朝読書の習慣が身につけてきていると考えられる。 ②コロナ感染症の影響引き下げにより、PTA活動が実施することができ、PTA活動に対する満足度が上がった。 | A | ①今年度から読書カードをつくり、生徒が読んだ本についての情報を記録させるようにし、進学時における資料として活用できるようにした。引き続き、来年度も実施していく。 ②PTAの活動が保護者から見えるようになったことに加え、昨年度は中止になったPTAの清掃活動を実施できたことで評価が上がった。来年度もフードドライブや清掃活動等を実施する予定である。 |
| | | ②保護者、同窓会との連携を深めることによるKIPとしての活動の一層の充実 | ①各成果研究発表会等 | | |
| | | ③地域や関係機関と連携し、体験活動の充実を図ることによる思考力・判断力・表現力の育成 | ①学校評価アンケート(教員、生徒) | | |

| 学校関係者評価 | |
|----------------|--|
| 実施日(令和6年2月23日) | |
| 評価 | 意見・要望等 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・BYODの導入に伴うICT教育については、新しい指導方法として生徒の理解を深める事が可能であると考えるが、教科ごと各教員ごとに差があるので、講習会などを開催して均一な授業が出来るようにしてほしい。 ・「反省や今後の取り組み」を先生方が、これまでの指導や生徒アンケートの結果から真摯に振り返り、今後に生かそうとしている点が評価できる。 ・新年度の31単位での実施予定について、新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望など実態に合った適切な教育課程を教職員で共有していることがうかがえる。 ・生徒の授業への要望を受け、先生方が様々な工夫を重ね改善されている様子がうかがえる。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」の「各種たより・ホームページ・クラスターなど」の情報提供に関する質問では、(生徒用)、(保護者用)ともに高評価になっている。引き続きこれらの媒体を積極的に活用、発信することにより、保護者との信頼関係を構築し、課題になっている「子どもの悩みや問題」について相談しやすい環境づくりを工夫してほしい。生徒用アンケートの「進路関係の面談や情報提供」の高評価は、その支えにもなる。 ・生徒より保護者のほうが相談しにくいと感じている面があるようだ。発信も重要であるが、どう受け止めていくかという点(懇談の際の保護者の話の聞き方など)などを検討すると良いと考える。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習と部活動のバランスについて、生徒からは8割以上の高い評価を示している結果が得られている。伝統のある部活の成績を維持しつつ、生徒や先生方の人数を考慮しながら、部活動の統廃合を検討していることは、評価できる。 ・学校アンケートの結果を見ると生徒、保護者、教員の順で部活動と学習との両立の項目で評価が下がっているが、それぞれの立場で物事の見方がかわってくるので概ね良好と考える。 ・先生方の負担や配置される教員数、専門性などを考えると、目指すべき文武一体は困難である。学校内で何とかしようとはせず、外部人材の活用や他校との協働を図っていくべきである。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・まずは挨拶の充実をお願いしたい。 ・KIPを通じて地域を知り、協力して答えを導き出し、地域の課題を解決する中で個々のコミュニケーション能力が高まってくると考える。 ・同窓会などと連携を図り、卒業生を活用していくことが大切である。お互いに生かされる関係を構築していくことが、将来への大切なつながりをつくっていくことになるのではないかと考える。 ・KIPは、とても有意義な取り組みと思われる。学生ごとの目標設定も継続性があり、生徒の学びを重なることができると考える。 ・保護者の学校評価アンケートの「基本的な生活習慣が確立」の高評価は、河高への信頼度の象徴的なものである。継続指導をしてほしい。 |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。